

「川場学園」開校準備室だより

令和6年5月31日（金）発行 第13号（発行：川場村教育委員会 開校準備室）

川場学園の目指す学校像「非認知能力を磨き合う学校」の具現化に向けて

【川場小中合同校内研修より】

川場学園は教育理念として、目指す学校像を「非認知能力を磨き合う学校」、そして目指す子ども像を「当事者意識をもって主体的に考え、判断し、行動する子ども」と掲げています。また、非認知能力につきましては、本村では「自分と向き合う力・自分を高める力・他者とつながる力」の3つに分類し、それぞれを「じっくり・ぐんぐん・にこにこ」と表現して子ども達にも分かりやすくしました。



その具現化に向けて、川場学園の開校1年前である本年度は、川場小中学校共に「非認知能力の育成」を共通の研修テーマに掲げ、第2回の合同校内研修が5月13日（月）に実施されました。まず、非認知能力育成担当の岡田教諭から、

学校運営の根幹となる学校教育目標が「絵に描いた餅」にならないようにするために具体的な行動指標を作成することの重要性と、その方法が説明されました。次に、その説明を基に先生方がいくつかのグループに分かれて、「自分と向き合う力・自分を高める力・他者とつながる力」のそれぞれの目指す子ども達の姿をグループワークでまとめ、各グループ毎に発表し考えを共有しました。



今回の合同研修では、「非認知能力を磨き合う学校」の具現化に向け、「非認知能力とは何か」についての正解を出すのではなく、**川場村の子ども達にとって必要な非認知能力を、現れてほしい子どもの姿を通して小中の先生方が一緒に考えたことが大きな成果**だったと思います。



【川場村教育研究会総会より】

また、5月21日（火）に行われた川場村教育研究会総会において、本年度の教育行政方針や川場学園開校に向けた取組について宮内教育長及び井口準備室長より説明を行い、共通理解を図りました。



宮内教育長からは、非認知能力の育成に向け「変わる大学入試」を例に考える子どもを育成していく重要性と、そのために**答えを見つける授業から答えを作る（考える）授業への転換**が必要であることの説明がありました。

井口室長からは、昨年度は川場学園の外形的なもの（制服や運動着等）についての協議が中心だったが、本年度は**子ども達の非認知能力を高めるための教育課程の編成**が中心となっていくことの説明がありました。

これらの取組を通して、川場学園で自ら考え協働して課題を解決でき、自ら輝ける子ども達が育っていくことが今から楽しみです。

本年度最初の開校準備委員会が開催されました

令和6年度第1回開校準備委員会が、5月21日（火）に開催されました。主な議題としては、令和5年度からの継続課題だった運動着の半袖Tシャツと制服用ワッペン仕様について、また川場小中学校の閉校に伴う閉校記念誌と川場学園の開校式典について検討され、下記のように決定されました。



○運動着の生地について

- ・速乾性のある生地を使うが、価格等を考慮してポリエステル95%、綿5%の生地を採用する。

○ワッペンの空の色について

- ・原案を基に業者が仕上げたワッペンは空が黒だったが、薄い青から濃い青へのグラデーションとする。

○川場小中学校の閉校記念誌について

- ・小中合本のパンフレット形式の記念誌とする。

○開校式・開校式について

- ・開校式は学校主催とし、小中とも修了式の午前中に時間をずらして開催する。
- ・開校式は村主催とし、始業式の午前中（始業式前）に開催する。



開校に向けての準備の進捗状況等につきまして、ご不明な点等ございましたら、遠慮なくお問い合わせください。

川場村教育委員会 開校準備室（室長：井口昌之 0278-52-3458）